

2015 年度 大阪大学 前期 世界史

(I) 東南アジアの文字

出題範囲	古代～近代の政治・文化史
難易度	★★★☆☆
所要時間	40 分
傾向と対策	東南アジアの文字についての問題。基本的事項について問われており、多くの受験生が高得点を取ると思われる。東南アジアを辺境と決めつけ出題されないと高をくくっていると痛い目を見るだろう。時代ごとに世界史を概観するだけでなく、受験が迫ってきたら地域史にも着目して、東南アジアの歴史、東欧の歴史、イギリス史というように地域・国ごとに通史を追う勉強法も有効である。

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

解答

- 問1 インドのサンスクリット語がインド商人によってヒンドゥー教や仏教などの宗教や『マハーバーラタ』などのサンスクリット文学とともに東南アジアに伝えられ、改良されて用いられるようになった。(90 字)
- 問2 香辛料貿易の担い手であるムスリム商人やイスラーム教の布教活動を行うスーフィーの進出によって東南アジアでイスラーム教が広まると、『コーラン』の読解に必要なアラビア文字が普及した。(88 字)
- 問3 ベトナム北部は紀元前から中国の支配下であったため漢字が普及していた。陳朝大越国時代に元の襲来を受けると民族意識が高揚し、漢字をもとにした自国の文字であるチュノムが作られた。(86 字)
- 問4 16 世紀以降、ヨーロッパ人はカトリック布教を目的として東南アジアの港市を訪れた。19 世紀以降になるとプランテーションや鉱山開発を目的として東南アジアを植民地化し、20 世紀前半にはタイを除く全東南アジアを植民地化した。(105 字)

問1 難易度：★★★★☆

解答例

インドのサンスクリット語がインド商人によってヒンドゥー教や仏教などの宗教や『マハーバーラタ』などのサンスクリット文学とともに東南アジアに伝えられ、改良されて用いられるようになった。(90字)

設問の要求

字数 90字程度

主題 サンスクリット文字が東南アジアで用いられるようになった歴史的背景

条件 伝わった宗教・文化に留意する

「サンスクリット語」という言葉を用いる

解説

(1)問題文から解答の形式について考える

設問文に「伝わった宗教・文化に留意しながら」とあるので、①の文字は宗教・文化とともに東南アジアに伝わったと推測できる。であれば、それらを伝達する役割を担った何らかの事件・人物があるはずだ。つまり、「～にあった①の文字が、〇〇によって(宗教・文化)とともに、東南アジアに伝わり、改良されて用いられるようになった。」という形式で答えればよいとわかる。

(2)各要素について考える

(1)で考えた形式を各要素に分割し、それぞれ考えてみる。まず、指定語句から①の文字はサンスクリット文字であると考えられる。サンスクリット語はインドの言葉なので、「インドにあったサンスクリット語が」から始めればよいとわかる。

次に、「〇〇によって(宗教・文化)とともに」の部分だが、

- ・インドと東南アジアを結んだのは、海の道で活躍したインド商人。
- ・インド商人が伝えたのは、ヒンドゥー教・仏教・サンスクリット語・インド文学。
- ・ヒンドゥー教寺院のアンコール=ワット、インドネシア伝統の影絵ワヤンの題材となったサンスクリット文学『マハーバーラタ』などもその影響のひとつである。

これらの候補から、指定字数の範囲内で適当な情報量を加えるとよいだろう。

(3)軸となる文を作り、指定字数に合わせて要素を追加していく

軸となる文章は、「インドのサンスクリット語が、インド商人によってヒンドゥー教や仏教などの宗教やサンスクリット文学とともに東南アジアに伝わり、改良されて用いられるようになった。(78字)」である。

字数に余裕があるので要素を追加して、「インドのサンスクリット語がインド商人によってヒンドゥー教や仏教などの宗教や『マハーバーラタ』などのサンスクリット文学とともに東南アジアに伝えられ、改良されて用いられるようになった。(90字)」とするとちょうどよい。

問2 難易度：★★★★☆

解答例

香辛料貿易の担い手であるムスリム商人やイスラーム教の布教活動を行うスーフィーの進出によって東南アジアでイスラーム教が広まると、『コーラン』の読解に必要なアラビア文字が普及した。(88字)

設問の要求

字数 90字程度

主題 アラビア文字が東南アジアで用いられるようになった歴史的背景

条件 宗教とその伝播の担い手に留意する

解説

(1)問題文から解答の形式について考える

問1と同様に、宗教の伝播と一緒に広がった言語だと考えられるので、「〇〇によって、(宗教)が広がるとともに、②の文字も普及した。」という形式で答えればよさそうだ。

(2)各要素について考える

「1300年前後から特に島嶼部で用いられた」というキーワードからマラッカ王国、マタラム王国、アチェ王国を思い出し、それらがイスラーム国家であることから、②の文字がイスラーム教とともに伝播したアラビア文字であると気づきたい。普段から資料集などを用いて学習しておく、こうした問題にも迷わず解答できる。

文字がアラビア文字、宗教がイスラーム教だとわかたら、それらを東南アジアに伝播させたのはダウ船に乗ったムスリム商人であることがわかるだろう。また、東方への普及にはスーフィーの活動も大きな影響をもたらしたことも重要である。

(3)軸となる文を作り、指定字数に合わせて要素を追加していく

軸となる文章は、「ムスリム商人やスーフィーの進出によって東南アジアでイスラーム教が広まると、アラビア文字が普及した。(50字)」である。

字数に余裕があるので要素を追加する。本問ではムスリム商人やスーフィーの動機、イスラーム教とアラビア文字のつながりを明記して、「香辛料貿易の担い手であるムスリム商人やイスラーム教の布教活動を行うスーフィーの進出によって東南アジアでイスラーム教が広まると、『コーラン』の読解に必要なアラビア文字が普及した(88字)」とするとちょうどよい。

問3 難易度：★★★★☆

解答例

ベトナム北部は紀元前から中国の支配下であったため漢字が普及していた。陳朝大越国時代に元の襲来を受けると民族意識が高揚し、漢字をもとにした自国の文字であるチュノムが作られた。(86字)

設問の要求

字数 80字程度

主題 漢字の導入とチュノムの作成の両方の背景

条件 チュノムの呼び名はカタカナで書く

解説

(1)問題文から解答の形式について考える

「前者の導入」→「後者の作成」の順番で述べればよい。

(2)各要素について考える

③の文字が漢字であることはすぐにわかるだろう。そして、東南アジア大陸部で漢字をまねて作られた文字といえばベトナム北部の字喃（チュノム）である。

文字がわかったところで背景について考える。

- ・前者の導入→紀元前から中国の支配下にあった。
- ・後者の作成→チュノムの普及は陳朝大越国時代。陳朝大越国時代に起こった事件として元の襲来がある。元の襲来を退け、民族意識が高揚した陳朝では自国の言語を文字として表す潮流が生まれ、漢字をもとにしたチュノムが作られた。

(3)軸となる文を作り、指定字数に合わせて要素を追加していく

軸となる文章は、「ベトナム北部は紀元前から中国の支配下であり、漢字が普及していた。陳朝大越国時代に元の襲来を受けると民族意識が高揚し、漢字をもとにした自国の文字であるチュノムが作られた。(84 字)」である。字数がちょうどよいので、これでよいだろう。

問4 難易度：★★★★☆**解答例**

16 世紀以降、ヨーロッパ人はカトリック布教を目的として東南アジアの港市を訪れた。19 世紀以降になるとプランテーションや鉱山開発を目的として東南アジアを植民地化し、20 世紀前半にはタイを除く全東南アジアを植民地化した。(105 字)

設問の要求

字数 100 字程度

主題 16 世紀から 20 世紀前半にかけてのヨーロッパ列強の東南アジア諸地域における活動形態の変化

条件 大きく 2 つの段階に分ける

指定語句をすべて用いる

解説

(1)問題文から解答の形式について考える

問題文に書いてあるように 2 つの段階に分けられる。本問では「変化」について問われているので、前半の段階で変化前について、後半の段階で変化後について述べればよいだろう。

(2)各要素について考える

④の文字はアルファベットである。指定語句から考えるに、

- ・変化前=16 世紀以降カトリック布教のために訪れたスペイン・ポルトガル
- ・変化後=19 世紀以降植民地獲得のために進出したイギリス・フランス・オランダ

を念頭に書いていけばよい。この際、設問文では「ヨーロッパ人」と一括りにされているため、具体的な国名に

言及する必要はないだろう。

次に、指定語句について考える。プランテーションは植民地獲得の目的であるから変化後で、港市は貿易に関わる語句なので変化前で用いる。タイはアユタヤを例にとって港市の具体例として変化前で、または東南アジアで唯一植民地化されなかった国として変化後で用いることができる。

(3)軸となる文を作り、指定字数に合わせて要素を追加していく

変化前の段階は、「16 世紀以降、ヨーロッパ人はカトリック布教を目的として東南アジアの港市を訪れた。(39 字)」。変化後の段階は、「19 世紀以降になるとプランテーションや鉱山開発を目的として東南アジアを植民地化し、20 世紀前半にはタイを除く全東南アジアを植民地化した。(66 字)」である。2 つ合わせると 105 字で、字数がちょうどよい。

以下、タイを変化前の段階で用いた場合の解答を記しておく。「16 世紀以降、ヨーロッパ人はカトリック布教を目的としてタイのアユタヤなどの東南アジアの港市を訪れた。19 世紀以降になるとプランテーションや鉱山開発を目的とした植民地獲得のために東南アジアに進出した。」(97 字)。

(林遼河, 佐野来実, 町田佳奈子)

2015 年度 大阪大学 前期 世界史

(II) 近現代のヨーロッパ諸国と太平洋地域の歴史

出題範囲	近世～現代の政治史
難易度	★★★☆☆
所要時間	40 分
傾向と対策	ヨーロッパ・太平洋地域の国際関係についての問題。問 3 の(b)ではザール地方に関する地理的知識を、問 4 では近代日本に関する知識を要求された。世界史の入試問題でも地理的知識や日本の歴史については頻りに問われるのでよく復習しておこう。

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

解答

問 1 デンマーク シュレスヴィヒ・ホルシュタイン

問 2 ユグノー

【歴史的経緯】 アンリ 4 世はナントの王令でユグノーの信仰の自由を認め、ユグノー戦争を終結させた。

しかしルイ 14 世が国内の宗教統一を図ってナントの王令を廃止したため、多くのユグノーがカトリックによる迫害をおそれて新教国に亡命した。(105 字)

問 3 (a)バルト海南東部では東方植民を背景にブランデンブルク選帝侯国とプロイセン公国が成立し、両国が合併してプロイセン王国となった。プロイセン王国はポーランド分割でポーランド回廊を獲得し、それがドイツ帝国に引き継がれた。(105 字)

(b)第二次世界大戦後、炭鉱地帯であるザール地方はフランスの支配下に置かれたが、石炭・鉄鋼の共同管理を定めたヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の成立に伴って西ドイツに帰属した。(80 字)

問 4 中国は民族自決を含む十四カ条を原則としたパリ講和会議において、二十一カ条の要求の取り消しと旧ドイツ権益の返還を訴えたが拒否されたため、反帝国主義の五・四運動が起こり、ヴェルサイユ条約の批准を拒否した。アメリカはワシントン会議を開いて九カ国条約を締結し、中国における日本の特殊権益を認め、石井＝ランシング協定を破棄した。(159 字)

問1 難易度：★★★★☆

解答

A デンマーク B シュレスヴィヒ・ホルシュタイン

解説

問題文中の「領土の大部分を占むるユトランド」がヒント。ユトランド半島にある国はデンマーク。A がデンマークであることがわかれば、B はデンマーク戦争の講和条約でドイツ・オーストリアに割譲されたシュレスヴィヒ・ホルシュタイン両州であることがわかる。

問2 難易度：★★★★☆

C

解答

ユグノー

解説

まず、C に入る名称を答える。下線部(1)より 1685 年に信仰の問題から故国フランスを^お逐われ、イギリス・オランダ・プロイセン・デンマークに逃れたとある。1685 年にフランスで起こった出来事といえば、ルイ 14 世によるナントの王令の廃止である。ナントの王令廃止によってカトリックの迫害を恐れ、北ヨーロッパに移住したのはユグノー。ユグノーとはプロテスタントの 1 つであるカルヴァン派のフランスでの呼び名である。

【歴史的経緯】

解答例

アンリ 4 世はナントの王令でユグノーの信仰の自由を認め、ユグノー戦争を終結させた。しかしルイ 14 世が国内の宗教統一を図ってナントの王令を廃止したため、多くのユグノーがカトリックによる迫害をおそれて新教国に亡命した。(104 字)

設問の要求

字数 100 字程度

主題 ナントの王令の廃止に至った歴史的経緯

解説

(1)問題文から解答の形式について考える

下線部(1)の事態とはナントの王令の廃止であるので、多くのユグノーがフランスを離れるに至るまでの経緯について述べればよい。設問文より、16~17 世紀のフランスにおける政治権力の宗教的変動に触れ、最終的にカトリックを公認信仰としてユグノーを排除したという流れで書けばよい。

(2)各要素について考える

16~17 世紀のフランスにおける政治権力の宗教的変動は以下のよう。

1562~98 年 ユグノー戦争

1589 年 アンリ 4 世即位

1598 年 アンリ 4 世、ナントの王令発布。ユグノーに信仰の自由と市民権を付与してユグノー戦争終結

1661 年 ルイ 14 世による親政。王権神授説を唱える

1685 年 ルイ 14 世, **国内の宗教統一のためにナントの王令廃止**

アンリ 4 世によるナントの王令発布によってユグノー戦争が終結したこと, 国内の宗教統一のためルイ 14 世がナントの王令を廃止したこと, の 2 点に触れておきたい。

(3)軸となる文を作り, 指定字数に合わせて要素を追加していく

軸となる文章は, 「アンリ 4 世はナントの王令でユグノーの信仰の自由を認め, ユグノー戦争を終結させた。しかしルイ 14 世が国内の宗教統一を図ってナントの王令を廃止したため, 多くのユグノーがカトリックによる迫害をおそれて新教国に亡命した。(105 字)」である。字数がちょうどよいので, これでよいだろう。

問 3 難易度 : ★★★★★

(a)

解答例

バルト海南東部では東方植民を背景にブランデンブルク選帝侯国とプロイセン公国が成立し, 両国が合併してプロイセン王国となった。プロイセン王国はポーランド分割でポーランド回廊を獲得し, それがドイツ帝国に引き継がれた。(105 字)

設問の要求

字数 100 字程度

主題 ドイツがバルト海の南東部に領土を有した中世以来の経緯

解説

(1)問題文から解答の形式について考える

中世のバルト海南東部獲得からの経緯について述べればよい。

(2)各要素について考える

バルト海南東部はドイツの前身プロイセンの主要な領土であった。プロイセン王国は**ブランデンブルク選帝侯国**と**プロイセン公国**が合併してできた国である。両国の前身ブランデンブルク辺境伯領とドイツ騎士団領は 12～14 世紀のドイツ人の東方植民によって成立した。そして 1772～95 年に 3 回にわたって行われた**ポーランド分割**においてプロイセンはロシア・オーストリアとともにポーランド領を獲得し, **ポーランド回廊**を領土とした。その後, プロイセンが獲得した土地をドイツ帝国が引き継いだ。

(3)軸となる文を作り, 指定字数に合わせて要素を追加していく

軸となる文章は, 「バルト海南東部では東方植民を背景にブランデンブルク選帝侯国とプロイセン公国が成立し, 両国が合併してプロイセン王国となった。プロイセン王国はポーランド分割でポーランド回廊を獲得し, それがドイツ帝国に引き継がれた。(105 字)」である。字数がちょうどよいのでこれでよいだろう。

(b)

解答例

第二次世界大戦後, 炭鉱地帯であるザール地方はフランスの支配下に置かれたが, 石炭・鉄鋼の共同管理を定めたヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の成立に伴って西ドイツに帰属した。(80 字)

設問の要求

字数 80 字程度

主題 第二次世界大戦後のザール地方の取扱い

条件 ヨーロッパにおける平和構築との関係に留意する

解説

(1)問題文から解答の形式について考える

ザール地方の取り扱い（領有・管理など）についての経緯を示し、平和構築に寄与する形での解決が図られたという流れで記述する。背後には現在の欧州統合と EU の存在があることを意識する。

(2)各要素について考える

ザール地方はヨーロッパでも有数の炭鉱地帯であり、独仏の係争地であった。第二次世界大戦後の 1945 年にはフランス軍が進駐し、フランスの支配下に置かれた。フランスの外相シューマンは、大戦で疲弊したヨーロッパ経済を復興させるためにはエネルギー資源・鉱業資源の共同管理が不可欠であると考え（シューマン＝プラン）、52 年にヨーロッパ石炭鉄鋼共同体（ECCS）を発足させた。55 年には住民投票によって西ドイツへの帰属が決定した。

(3)軸となる文を作り、指定字数に合わせて要素を追加していく

軸となる文章は、「第二次世界大戦後、ザール地方はフランスの支配下に置かれたが、ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の成立によって西ドイツに帰属した。(59 字)」である。

字数に余裕があるので要素を追加する。ザール地方が炭鉱地帯であること、そして平和構築と絡めて ECCS の説明をつけて、「第二次世界大戦後、炭鉱地帯であるザール地方はフランスの支配下に置かれたが、石炭・鉄鋼の共同管理を定めたヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の成立によって西ドイツに帰属した。(80 字)」とするとちょうどよい。

問 4 難易度：★★★★☆**解答例**

中国は民族自決を含む十四カ条を原則としたパリ講和会議において、二十一カ条の要求の取り消しと旧ドイツ権益の返還を訴えたが拒否されたため、反帝国主義の五・四運動が起こり、ヴェルサイユ条約の批准を拒否した。アメリカはワシントン会議を開いて九カ国条約を締結し、中国における日本の特殊権益を認めた石井＝ラッシング協定を破棄した。(159 字)

設問の要求

字数 150 字程度

主題 第一次世界大戦中の中国への日本の影響力拡大に対する中国とアメリカの対応

条件 問 3 の問題文で述べられたヨーロッパでの平和構築の取組みとの関係に留意する

指定語句をすべて用いる

解説

(1)問題文から解答の形式について考える

設問文に「中国とアメリカの対応について述べなさい」とあることから、解答の前半で中国の対応について、後半でアメリカの対応について述べればよいだろう。

(2)各要素について考える

指定語句を分類していこう。民族自決を約束したパリ講和会議は批准を拒否した中国の文脈で、山東省の旧ドイツ権益も中国国内のものなので中国の文脈で使えるだろう。ワシントン条約はアメリカ主導の条約なのでアメリカの文脈で使う。

【中国の対応】

問題文にもあるとおり、日英同盟を口実に第一次世界大戦に参戦した日本は中国のドイツ領を占領し、二十一条の要求によって旧ドイツ権益を確保した。中国はパリ講和会議で二十一条の要求の廃棄と旧ドイツ権益の返還を訴えたが列強には受け入れられなかった。これを受けて中国では反日、反帝国主義を掲げる五・四運動がおこった。結果、中国はヴェルサイユ条約の調印を拒否した。

【アメリカの対応】

日本の勢力拡大を危惧したアメリカがワシントン会議によって日本を牽制したことに触れる。その中でも中国への影響力拡大に対する対応という意味では、特に九カ国条約の締結と石井＝ランシング協定の破棄が重要だろう。石井＝ランシング協定は、アメリカが中国における日本の特殊権益を認めた協定である。

(3)軸となる文を作り、指定字数に合わせて要素を追加していく

中国の対応は、「中国は民族自決を標榜するパリ講和会議において、二十一条の要求の取り消しと旧ドイツ権益の返還が認められなかったため、五・四運動がおこりヴェルサイユ条約の批准を拒否した。(87 字)」である。アメリカの対応は、「アメリカはワシントン会議で九カ国条約を締結し、日本との石井＝ランシング協定を破棄した。(46 字)」である。字数に余裕があるので要素を追加する。パリ講和会議、五・四運動、石井＝ランシング協定の説明をつけて、「中国は民族自決を含む十四カ条を原則としたパリ講和会議において、二十一条の要求の取り消しと旧ドイツ権益の返還を訴えたが拒否されたため、反帝国主義の五・四運動が起こり、ヴェルサイユ条約の批准を拒否した。アメリカはワシントン会議を開いて九カ国条約を締結し、中国における日本の特殊権益を認めた石井＝ランシング協定を破棄した。(159 字)」とするとちょうどよい。

(林遼河, 町田佳奈子, 今村優太)